

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	9	名称	歴史的町並み及び集落景観の保全			
主担当部	教育委員会事務局		主担当課	今井町並保存整備事務所	部長名	藤井 綾子	
関係部			関係課				

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	重要伝統的建造物群保存地区である今井町の歴史的町並み景観や大和盆地に見られる特徴的な環濠集落景観を適切に保全し活用することにより、歴史的資産を次世代へ継承し、文化財と住民生活の共存を図り、地域の個性、特徴等を活かした魅力と賑いのあるまちづくりを促進することを目的とする。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	今井町は、重要伝統的建造物群保存地区として重要な地域であるが、閑静な住宅地として整備を進めてきたこともあり、他の地区と同様に少子高齢化と人口減少という問題を抱えている。そのため、住民からは町の活性化への要望が大きくなってきており、現在進めている景観の保全と住環境の整備を加速し、歴史的資産を活用したまちづくりによる活性化を進めている。	今井町は全国に数多くある重要伝統的建造物群保存地区の中において、有数の規模を誇っており、国や県の支援を受け、継続的に事業を実施している。住環境整備についても、街なみ環境整備事業の計画を延長しながら、継続的に事業を進めている。
これまでの成果	これまで継続してきた町並保存事業、住環境整備事業の成果により、歴史的景観が向上し、重要伝統的建造物群保存地区としての価値は年々高くなっている。商業店舗の増加や空き家の減少など、町の活性化は確実に進んでおり、来訪者数についても増加する傾向がみられている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	修理・修景件数(件)	308	316	317	326	
	施策指標② (成果指標)	街なみ環境整備事業進捗率(%)	91	92	91	93	
	施策指標③ (成果指標)	来庁者数(人) (今井まちなみ交流センター)	32188	40000	32802	40000	
	施策指標④ (成果指標)						
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 (直接事業費)(a)		156,173	168,025	157,507	137,253	
	歳入 (b)	受益者負担額	7,131	6,744	7,065	9,707	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	68,030	81,931	64,159	52,946	
	(a)-(b)=一般財源		81,012	79,350	86,283	74,600	
	正職員	従事者数 (単位:人)	6.75	6.00	6.00	6.40	
		人件費(c)	38,522	34,242	34,878	37,203	
トータルコスト (a)+(c)		194,695	202,267	192,385	174,456		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	修理・修景事業による今井町内の建造物の改修と、街なみ環境整備事業による電線の地中化事業、西地区における環濠の復元的整備等が進み、町並み景観は向上し続けている。これにより今井町の重要伝統的建造物保存地区としての価値が高まり、歴史的景観を生かした取り組みを住民やその他団体等と進めることにより、相乗効果を生んでいる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	今井町の歴史的な町並みは、全国で有数の規模や伝統的建造物の多さを誇り、また文化財と住民生活が共存する町という希少性を持っている。各事業によりその価値は年々上昇しており、橿原市政においても、住宅問題における空き家対策や、観光行政における資産として貢献している。				

6. 施策の課題

この施策の課題	今井町が文化財と住民が共存する町を維持し、将来に継承する上で、少子高齢化や住民減少等の問題を解消する必要が生じている。そのため、今井町のさらなる活性化に向けた取り組み、広域的な視点で今井町を活用した地域全体の活性化等目指し、現在の施策の見直しや新たな取り組みを進める必要がある。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	現在の施策を継続した上で、住民や各種団体と連携しながら、今井町の活性化に向け、様々な取り組みを進めていく。住民に対しては歴史的景観の保全や伝統的建造物の保存の啓発を実施していく。また、現有している町内の公共施設についても更なる利用拡大を目指して、条例、規則等の整備をすすめる。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	町並み保存事業と住環境整備事業は、今井町の歴史的町並み景観を保全し、次世代に継承するための重要な施策であり、今後継続するだけでなく、町の活性化と価値の向上を目指し強化する必要がある。今井まちなみ交流センター等施設管理事業は、重要伝統的建造物群保存地区の啓発や来訪者へのおもてなし、案内、見学、学習施設として有効に機能している事業で、今後その他の事業と連携し強化することで、ソフト面で町の活性化を後押しする効果が期待できる。今井町公共施設管理事業は、観光、防災等の観点で整備された重要な施設の維持管理を行う事業であり、継続して実施する。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
1	今井町並保存整備事務所	華蓋は、今井町を訪れる来訪者のためのビジターセンターとして、来訪者に伝統的建造物群に対する理解を深めてもらう為、模型や展示物、パンフレット等を設置している施設であり、また、町並み保存のための各種団体の活動の場として活用する一方、講堂及び会議室については貸館として運用している施設である。まちなみ広場は今井町への来訪者のための駐車場と地域住民によるイベント広場会場として活用する。まちや館やまちづくりセンターは、体験見学施設としてのみならず、住民活動の場として活用する。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	C	○	
	今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業 (ソフト(任意))		13,181 (千円)					
2	今井町並保存整備事務所	今井町来訪者及び地区住民が快適に過ごせるよう以下の事業を実施する。 ・今井町公共施設の清掃を行う。 ・道路等の維持管理を行う。 ・建物及び機械器具に維持管理・修繕を行う。 ・植栽の維持管理を行う。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける		○	
	今井町公共施設維持管理事業 (内部管理・維持管理)		10,541 (千円)					
3	今井町並保存整備事務所	平成5年度に事業計画を策定し、翌年度より道路の美装化、電線の地中化、小公園、生活環境施設、防災施設等の整備を実施し、事業計画策定当初の整備はほぼ完了している。平成16年度には、今井の玄関口に当たる今井東地区を区域に入れ事業計画の変更を行ない、平成20年度より東地区の整備に着手し平成24年度に完成した。平成21年度には事業計画の変更見直しを行ない、電線地中化未整備路線の無電柱化を推進するため、平成30年度まで事業計画の延伸を行っている。また、平成28年度で今井西地区における環濠の復元的整備、29年度に西環濠広場駐車場の整備を行った。	1 継続する	a	継続する		○	
	住環境整備事業 (ハード)		50,644 (千円)					
4	今井町並保存整備事務所	伝統的建造物群保存地区の制度を地域住民の方々に認識していただくための周知啓発を引き続き実施する。また、地域内において、建造物等の修理等が行われる場合については、現状変更協議・許可申請並びに補助金支出の手続き等を的確に行い、関係機関・関係課との連携・調整を図りながら文化財保存事業を実施し、町並み景観の保存を推進する。その他、まちづくりや町並み保存のために活動している地域住民等により構成されている団体に対して支援を行うと共に、町並み保存、空家対策、技術継承のため各種事業を連携・協働して実施する。	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	B	○	
	町並保存事業 (ソフト(任意))		83,141 (千円)					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N	事務事業名	今井まちなみ交流センター等施設管理運営事業								
	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全						
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる						
		基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり						
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	今井まちなみ交流センター管理運営費								
事業の開始年度	平成	6	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度			
計 画	対象	今井町来訪者及び地区住民			事業の内容説明	華豊は、今井町を訪れる来訪者のためのビジターセンターとして、来訪者に伝統的建造物群に対する理解を深めてもらう為、模型や展示物、パンフレット等を設置している施設であり、また、町並み保存のための各種団体の活動の場として活用する一方、講堂及び会議室については貸館として運用している施設である。まちなみ広場は今井町への来訪者のための駐車場と地域住民によるイベント広場会場として活用する。まちや館やまちづくりセンターは、体験見学施設としてのみならず、住民活動の場として活用する。				
	事業の目的	歴史的町並みの保存の為、市民の文化、教養の向上を図るとともに伝統的建造物群に対する理解を深め、ふれあいと豊かな地域社会づくりに寄与することを目的とする。								
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）						
市の関与の必要性を評価してください	説明	来訪者のための案内施設及び見学施設と地域住民や団体が行うまちづくり、町並み保存の活動の場として機能しており、伝統的建造物群に対する理解を深め、豊かな地域社会づくりに寄与しているため。								
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	来訪者記帳者数			32,188	40,000	32,802	40,000	41,000	
	活動指標①	開館日数			303	359	359	359	359	
	活動指標②									
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			12,357	13,577	13,181	15,372		
		歳入(b)	受益者負担額			7,106	6,744	7,065	7,107	
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			5,251	6,833	6,116	8,265		
正職員		従事者数（単位：人）			1.35	1.45	1.45	1.55		
		人件費(c)			7,704	8,275	8,429	9,010		
トータルコスト(a) + (c)			20,061	21,852	21,610	24,382				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	来訪者の方々にパンフレット・模型等を活用し地区内の概要（歴史・成り立ち）を解説し、各種団体がまちづくりのための会合、講演会等を実施している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	歴史的町並み景観・集落景観の保全や伝統的建造物群に対する理解を深めるために、この事業の重要度は高いと考えられる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	今井まちなみ交流センターの人件費については、最低減の2人のみ予算計上しており、今井まちづくりセンター・今井まちや館については、地元保存会に運営業務を委託しており、削減は難しい。電気料金等冷暖房の適正管理で光熱費等の削減に努める。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		各施設と今井町のパンフレット及びホームページ等でPRすることや空き部屋を有効活用することで、貸し施設利用率及び来訪者数を増やし、今井町の歴史的町並みの理解を広げることが出来る。 各施設を地区の各種団体等が行うイベント・講演等に利用してもらうことにより、今井町のまちづくり・地域の活性化に寄与されることが予想される。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	C
説明		従事者数については、削減は困難であり、維持する必要がある。また、建物や機器等については、適切な修繕を実施し、維持管理コストの縮減に努める。								

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	今井町公共施設維持管理事業									
	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全							
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる							
		基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり							
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	今井町町並み施設管理費									
事業の開始年度	平成	-	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度				
対象	今井町来訪者及び地区住民			事業の内容説明	今井町来訪者及び地区住民が快適に過ごせるよう以下の事業を実施する。 ・今井町公共施設の清掃を行う。 ・道路等の維持管理を行う。 ・建物及び機械器具に維持管理・修繕を行う。 ・植栽の維持管理を行う。						
事業の目的	歴史的町並み景観を保全し、今井町来訪者及び地域住民に快適な空間を提供するため、今井町内の公共施設を適切に維持管理することを目的とする。										
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い		
		説明									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標	来訪者記帳者数			32,188	40,000	32,802	40,000	41,000		
	活動指標①	維持管理費			9,692	11,297	10,541	13,767	13,767		
	活動指標②										
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			9,692	11,962	10,541	13,767			
		歳入(b)	受益者負担額			25		2,600			
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）								
		(a) - (b) = 一般財源			9,667	11,962	10,541	11,167			
正職員		従事者数（単位：人）			1.35	1.25	1.25	1.50			
		人件費(c)			7,704	7,134	7,266	8,720			
トータルコスト(a) + (c)			17,396	19,096	17,807	22,487					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	来訪者、地域住民の憩いの場として、また、地域住民の生活環境の向上に貢献している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	今井町公共施設を維持管理することにより、歴史的町並み景観の保全が行われている。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		3	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	今後も契約時は入札により経費軽減に努めるが、施設の老朽化により修繕費用を高め、光熱水費については利用者の増加に伴い増えると想定されることから経費削減は難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		維持管理経費を削減すると、今井町公共施設としての適切な維持が出来ず、来訪者及び地域住民に不快感を与え、今井町の良好な町並み景観を損なう恐れがある。伝統的建造物群としての町並み景観に合わせた適切な施設維持管理を行っていく事で、今井町の景観が維持され、来訪者の増加に繋がることが期待される。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明		今井町は橿原市が誇る歴史的資産であり、多くの来訪者が見込まれるため、適切な水準での施設管理を続ける必要がある。								

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	住環境整備事業									
	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全							
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす							
		基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する							
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	今井町住環境整備事業									
事業の開始年度	平成	5	年度	事業の終了予定年度	平成	30	年度				
対象											
事業の目的	今井町重要な建造物群保存地区の歴史的な町並みの保全と活用を図り、住民主体の賑わいのあるまちづくりを進めるため住環境の整備を行う。				事業の内容説明(全体計画)	平成5年度に事業計画を策定し、翌年度より道路の美装化、電線の地中化、小公園、生活環境施設、防災施設等の整備を実施し、事業計画策定当初の整備はほぼ完了している。平成16年度には、今井の玄関口に当たる今井東地区を区域に入れ事業計画の変更を行ない、平成20年度より東地区の整備に着手し平成24年度に完成した。平成21年度には事業計画の変更見直しを行ない、電線地中化未整備路線の無電柱化を推進するため、平成30年度まで事業計画の延伸を行っている。また、平成28年度で今井西地区における環濠の復元的整備、29年度に西環濠広場駐車場の整備を行った。					
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）									
市の関与の必要性を評価してください	説明										
	やめた場合の影響は	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標										
	活動指標①	住環境事業の進捗率			91	92	91	93	95		
	活動指標②	電線地中化整備率			50	50	50	66	66		
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			74,523	59,049	50,644	54,692			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			34,000	24,931	22,324	22,946		
		(a) - (b) = 一般財源			40,523	34,118	28,320	31,746			
正職員		従事者数（単位：人）			2.10	1.70	1.70	1.55			
		人件費(c)			11,985	9,702	9,882	9,010			
トータルコスト(a) + (c)			86,508	68,751	60,526	63,702					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考	総合戦略の位置付けは 3 - 2 - 2 ②にも該当										

CHECK	進捗状況	目標（計画）どおり 進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	第7期の電線地中化事業については関連事業者との調整に期間を要し、詳細設計が繰り延べとなり計画が変更されたが、現在は計画に基づき事業が進捗しており、平成31年度より着工の予定である。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明				
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
		説明					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内 優先度
		説明	第6期の電線地中化については、平成30年度で完了の予定であるが、引き続き平成31年度より第7期が着手予定である。その他の事業についても、事業計画に基づき実施し、地区内における景観・住環境整備を進める予定である。				

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	町並保存事業									
	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	今井町並保存整備事務所	課長名	日裏 康夫					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	9	歴史的町並み及び集落景観の保全							
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる							
		基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり							
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	今井町並保存事業									
事業の開始年度	平成	59	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度				
対象	今井町重要伝統的建造物群保存地区内において、修理修景事業等を実施しようとする者			事業の内容説明	伝統的建造物群保存地区の制度を地域住民の方々に認識していただくための周知啓発を引き続き実施する。また、地域内において、建造物等の修理等が行われる場合については、現状変更協議・許可申請並びに補助金支出の手続き等を的確に行い、関係機関・関係課との連携・調整を図りながら文化財保存事業を実施し、町並み景観の保存を推進する。その他、まちづくりや町並み保存のために活動している地域住民等により構成されている団体に対して支援を行うと共に、町並み保存、空家対策、技術継承のため各種事業を連携・協働して実施する。						
事業の目的	重要伝統的建造物群保存地区に選定されている今井地区において、伝統的建造物群の保存に対する住民意識の向上を図り、文化財の保存と継承及び景観保全に向けた取り組みを進める。また、地域住民と行政が連携協力することにより、町並み保存と住民生活が共に成り立つまちづくりを進める。										
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
		説明	文化財保護法143条第1項の条文に基づき、市が伝統的建造物群保存地区を定め、条例で該当地区の保存のため、政令の定める基準に従い必要な現状変更の規制について定めるほか、その保存のため必要な措置を定めているため。								
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	文化財保護法143条第1項の条文に基づき、市が伝統的建造物群保存地区を定め、条例で該当地区の保存のため、政令の定める基準に従い必要な現状変更の規制について定めるほか、その保存のため必要な措置を定めているため。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度			
				実績	計画	実績	見込み	見込み			
	成果指標	修理物件数／伝統的建造物物件数（504件）		61	62	62	64	66			
	活動指標①	伝統的建造物等の修理物件数		308	316	317	326	336			
	活動指標②										
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			59,601	83,437	83,141	53,422			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			34,030	57,000	41,835	30,000		
		(a) - (b) = 一般財源			25,571	26,437	41,306	23,422			
正職員		従事者数（単位：人）			1.95	1.60	1.60	1.80			
		人件費(c)			11,129	9,131	9,301	10,463			
トータルコスト(a) + (c)			70,730	92,568	92,442	63,885					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
		説明	修理・修景事業を実施していただくために、特に老朽家屋や長屋（借家）等の所有者への「働きかけ」を、積極的に行っている。また、その際に今井地区内における規制や補助制度等についての説明を具体的に行うことにより、修理・修景事業が進捗し、町並みの景観が維持されている。				
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
		説明	今井地区内における建造物等の修理・修景事業を実施することにより町並み全体としての景観が向上し、歴史的町並み景観の保全に対しても非常に有効で貢献度は高い。				
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない	
		説明	橿原市伝統的建造物群保存地区補助金交付要綱の補助基準の中で、事業者が修理・修景事業を実施される場合の補助率等が定められており、これをもとに査定をおこない補助金の交付決定額を算出しているため低減の余地はない。				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		今井町重要な建造物群保存地区内においては、老朽家屋が多数あったが過年度までに相当数の修理事業を実施することができた。しかし、修理費用が高む大規模な建造物（特に長屋建て建物）については莫大な修理費用がかかるため、個人での事業実施が困難な状態となっている。今後は産学民官等が連携し建物の活用例等を検討・提案することにより、事業実施に向けて取り組む必要があると考える。このことにより、町並み全体としての景観が維持され、歴史的町並み景観の向上に繋がることが期待できる。				
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する 4 廃止又は休止する	2 現状のまま継続 5 完了する	3 縮小する	課内優先度 B
説明		今井重要な建造物群保存地区における保存整備計画について、平成21年度において見直しをおこなったところである。今後は、この整備計画に基づき整備する必要があると考える。また、見直しを必要となるケースが出てきた場合は、検討し、見直しを行い継続的に事業を行う必要があると考える。					